

2024 年度 JRA 畜産振興事業
次世代の養蜂人材育成のための研修事業
募集要項

2024 年 4 月 26 日

公益社団法人国際農林業協働協会
(JAICAF)

目次

1. 事業の目的.....	1
2. 募 集.....	1
1) 対 象.....	1
2) 募集内容.....	1
3) 参加要件.....	2
4) 応募書類.....	3
5) 参加経費.....	3
6) 海外研修の選考.....	3
3. 事業の概要.....	4
1) 事業スケジュール.....	4
2) 学習テーマの設定.....	5
3) 国内研修.....	5
4) 海外研修.....	6
5) 成果発表.....	8

養蜂はハチミツ等蜂製品の提供の他、花粉媒介を通じてわが国農業に貢献する重要な産業です。近年、SDGsの観点などから注目を集める一方で、しかし、養蜂業の担い手不足や不十分な産業基盤といった課題があります。

2024年度、公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF）は、JRA（日本中央競馬会）から助成を受け、養蜂の意義・役割に加え、養蜂産業の課題や課題解決のアプローチを学ぶ高校生向けの研修事業を実施します。

国内での学習と海外での研修を組み合わせ、養蜂産業をより広い視点から考える事業とします。海外研修は、養蜂産業の黎明期であり、技術普及や研究開発に取り組もうとしているモンゴルで行います。

なお、本事業では、養蜂産業の観点から主にセイヨウミツバチを扱います。

※本事業は、JRA（日本中央競馬会）の資金によって実施されます。

1. 事業の目的

学校教育の現場においても、課外活動などでミツバチの生態や養蜂を通じた自然や社会との関わりをテーマに、学習を継続している学校があります。本事業は、こうした学校を対象に、現在各校で行われている学習を補強しつつ、養蜂産業への視点も得られるような学習プログラムを学校側に提供し、広く養蜂産業振興に貢献する人材の育成に繋げることを目的とします。

2. 募集

1) 対象

養蜂やミツバチに関する事柄を課外学習等に取り入れている高等学校において、当該学習プログラムに参加する高校生

2) 募集内容

(1) 国内研修と (2) 海外研修に分けて募集します。

学校単位で応募をお願いします。参加を希望する高校は、次ページの提出先まで、「2. 募集」の「4) 応募書類」に示す必要書類を提出してください。

国内研修に人数制限はありません。国内研修のみに参加することもできます。

海外研修はモンゴルで実施し、各校代表者を募集します（株式会社エイチ・アイ・エス（以下、「HIS」とする）がモンゴル旅行の運営を担います）。

海外研修の参加人数は計 16 名（予定）です。参加希望の学校は、各校の代表候補者を原則 1 名推薦してください。複数名の応募も可としますが、その場合は、校内選考を経て、候補者に優先順位を付して申し込んでください。

提出期限：**2024 年 5 月 24 日（金）正午 必着**

提出方法：メールによる電子提出

件名【**JRA 養蜂研修への応募（学校名）**】としてください。

※PDF 1 ファイルにまとめ、必ずパスワードをかけること

※パスワードは別メールで提出先に連絡のこと

提出先：JRA 養蜂研修事業事務局

公益社団法人国際農林業協働協会 業務グループ

西山 deske@jaicaf.or.jp / 森 m.mori@jaicaf.or.jp

問合せ先 TEL 03-5772-7880（土日祝日を除く 10:00-17:00）

受領後、2 営業日以内に受領の連絡を行います。受領メールが届かない場合は、問合せ先までお電話ください。なお、5 月 25 日（土）10:00～16:00 も電話を受け付けます。

3) 参加要件

研修参加者（校）は、下記を満たすこととします。

(1) 国内研修

- ① 養蜂やミツバチに関心を有していること
- ② 年間を通じた研修プログラムに参加できること
- ③ イベントや成果発表会で成果を発表する意思を有していること
- ④ 参加校は、事務局が 3 年後に実施するアンケート調査に協力すること

(2) 海外研修

- ① 国内研修に参加すること
- ② 8 月 10 日（土）～8 月 21 日（水）のすべてのプログラムに参加すること
- ③ 他校の生徒と協力し、自立的かつ積極的に学習に臨む姿勢を有していること
- ④ 10 日間のモンゴル滞在に十分な心身の健康を保持していること

（特別にケアが必要な場合は、事前に事務局までご相談ください。）

選定され海外研修に参加することになった者には、下記を求めます。

- モンゴルの文化を尊重すること
- モンゴル旅行中は事故の無いように注意を払い、事務局による安全上の指示に従うこと
- ハチアレルギーを含め、自身で責任をもって体調管理を行うこと
- 事務局からの求めに応じ、帰国報告会やその他発表の場で研修報告を行うこと
- また、モンゴル旅行に当たって、旅行申込書・保護者同意書を提出いただきます。

4) 応募書類

次の書類を様式に従って作成し、提出してください。

- ① 申請書（様式 1）
- ② 養蜂・ミツバチに関する課外活動の概要（様式 2）
- ③ 国内研修の参加者リスト（様式 3）
- ④ 海外研修参加希望者の情報（様式 4）
- ⑤ 海外研修参加希望者について、学校関係者による推薦文（様式 5）
- ⑥ 学校概要（様式自由、既存のパンフレットなどで可）

※④と⑤は希望者 1 名につき 1 セット作成して提出してください。

5) 参加経費

事務局が負担する経費は表 1 のとおりです。

表 1 事務局が負担する経費とその範囲

費目	範囲、詳細、備考
1. 国内研修 <ul style="list-style-type: none">● 交通費及び宿泊費● 養蜂家への謝礼金● イベント登録料	養蜂現場の視察、事務局が参加を依頼するイベント・発表会参加、定期ミーティングへの参加など、事務局が指定する研修プログラムへの参加に係る交通費及び宿泊費 ※各校 1 名分を原則とし、それ以外の経費は各自（各校）が負担する ※宿泊費は事務局が必要と判断した場合のみ 見学謝礼金（1 カ所 1 回限り 7,900 円源泉税込：JRA 規定による） 事務局が指定するイベント参加のための登録料（必要な場合） ※各校 1 名分を原則とし、それ以外の登録料は各自（各校）が負担する
2. 海外研修 <ul style="list-style-type: none">● 旅行代金	往路は前泊ホテル集合、復路は帰国報告会場（東京近郊）解散。 前日及び後泊宿泊費、モンゴル旅行代金（フライト代、滞在費（モンゴル内各日 3 食付）、海外旅行保険代）を事務局負担。 ※前泊ホテル→成田空港、成田空港→後泊ホテルの移動は各自負担。 ※手荷物超過料金は各自負担。 ※集合場所への移動経費の他、服装や持ち物の準備、個人的な通信及び旅行中の飲料や土産購入等プログラム外の私的な支出は各自負担。 ※日本国内の食事代及び報告会場から自宅までの移動経費は各自負担。 ※社会通念上やむを得ない事情を除き、自己都合による不参加に伴うキャンセル料は本人負担といたします。

6) 海外研修の選考

外部専門家による委員会にて審査し、参加者を選定します。審査に当たっては、できるだけ多くの参加校を得るため、原則として 1 校 1 名を選定し、さらに空席があった場合に限り同じ学校から 2 名以上を選定します。

16 名を選定しますが、キャンセルによって空席ができた場合に備え、2 名程度を補欠として選定します。ただし、キャンセルが出た場合であっても、フライトの関係上、参加できる

かどうかは確実ではありません。キャンセルが出た場合は、7月10日までに補欠者に電話にて参加可否を確認の上、HISを通じてフライト確保に努め、その結果、フライトが確保ができれば、参加いただくことになります。

なお、モンゴルについての知見や養蜂技術の有無は、選考には影響しません。

3. 事業の概要

本事業では、ミツバチや養蜂の学習プログラム（以下、「養蜂学習」という）を実施する高等学校を対象に、養蜂産業の意義や実際を学ぶ研修を実施します。参加者は各校の養蜂学習に参加する高校生です。研修のプログラムは、①通年の国内学習（国内研修）と②海外での研修（海外研修）を組み合わせたものとし、海外研修には参加校から代表者が参加します。一方、国内研修には、海外研修に参加しない生徒も参加し、年間を通じて学習を深めます。

※ 代表者が参加するモンゴル旅行については、事務局で旅行傷害保険を手配します。

国内研修は参加各校の責任において事故等に備えてください。事務局で保険加入は行いません。

1) 事業スケジュール

	全般	国内研修			海外研修 (モンゴル)	
5月	5月24日(金) 正午 参加申込〆切				5月24日(金) 正午 参加申込〆切	
6月		事業解題(6/15午後) 専門家講義 (6/15-7/6午後)			6月3日(月) 参加者決定・通知	
7月		・東京近郊開催・オンライン併用	養蜂家訪問 (随時)	学習テーマ設定 校内学習(自学) 定期ミーティング	研修参加準備 (参加者各自) オリエンテーション (7/20午後)	
8月			↓	↓	8/10 前泊 8/11-8/20 ツアー 8/21 報告会	
9月						
10月	イベント等での 発表					
11月						
12月						
1月						
2月						
3月	成果発表会	事業終了・報告書発行				

2) 学習テーマの設定

参加校には、座学終了後、研修全体を通じた学習テーマを設定していただきます。

- 各校（あるいは校内の学習グループごとなど）で養蜂産業に関連する学習テーマを1テーマないし複数テーマ定め、海外研修に参加しない生徒も一緒に学びを進めてください。
- 日本とモンゴルの比較研究をとおして、学習を深めてください。

【学習テーマ】

- 養蜂業の一年、養蜂家の仕事
- ミツバチの蜜源・花粉源
- 養蜂業と農業生産
- ミツバチの病気とその対策
- 養蜂技術
- 養蜂を支える法制度・組織・人材
- 養蜂産業の意義と課題
- 養蜂が社会経済に与える影響
- ハチミツのバリューチェーン

3) 国内研修

国内学習は、専門家による座学や養蜂家訪問による学びを含め、学習テーマに沿った自主学習、学校の枠を超えた学習の共有から構成します。すべてのプログラムに参加者全員が参加する必要はありませんが、各自6割以上の参加を期待します。なお、座学については、当日参加できない生徒向けに録画データを共有します。

海外研修に参加しない生徒も積極的に学びに参加できるよう、学習テーマに沿って、年間を通じて学習を進めるものとします。さらに、海外研修に参加する生徒（代表者）が持ち帰る内容をもとに、日本とモンゴルを比較し、生徒全体で一緒に学びを深めてください。

学習の進め方はそれぞれの学校に任せますが、各校の間でも、研修での気づきや校内学習の様子を共有できるよう、定期ミーティングを開催します。その際には、養蜂技術やミツバチに詳しい専門家からコメントを頂く機会も設ける予定です。

① 座学

学習テーマ設定の一助として、また、研修全体の背景情報として、基礎的な知識を学びます。

プログラム（予定）

日時	テーマ	場所
6月15日(土) 14:30～17:00	事業解題 第1回講座 ● ミツバチの生態と飼育方法 ● 日本の養蜂、世界の養蜂	東京近郊／オンライン
7月6日(土) 15:00～17:00	第2回講座 ● ミツバチと養蜂資源植物 ● 送粉サービスー養蜂と農業	東京近郊／オンライン

② 養蜂家訪問

事業期間中、参加校の周辺地域で養蜂場等への見学や養蜂家訪問等を行い、設定したテーマに沿って学習を深めてください。

すでに協力養蜂家がある場合はその養蜂家に、そうでない場合や希望がある場合は、事務局で協力養蜂家等を紹介します。

参加校確定後、個別に現状を確認し、訪問先について検討します。

③ 定期ミーティング

研修参加校やその数によって時期や時間配分が変更となりますので、下記は目安と考えてください。参加校が決まった後、改めて日時を調整・決定し、お知らせします。

実施予定時期	テーマ	場所
7月20日(土) 14:00～18:00	<ul style="list-style-type: none">各校の学習テーマとテーマ選択理由を共有 ※海外研修のオリエンテーションと同日開催。オリエンテーションには、海外研修に参加しない生徒も参加可	東京近郊／オンライン
9月下旬 午後の3時間程度	<ul style="list-style-type: none">代表校による進捗報告 ※発表校は事務局が事前に指名します。 <ul style="list-style-type: none">発表イベントに向けた準備	オンライン
10月下旬 午後の3時間程度	<ul style="list-style-type: none">代表校による進捗報告 ※発表校は事務局が事前に指名します。 <ul style="list-style-type: none">発表イベントに向けた準備	東京近郊／オンライン
11月下旬 午後の3時間程度	<ul style="list-style-type: none">代表校による進捗報告 ※発表校は事務局が事前に指名します。 <ul style="list-style-type: none">発表イベントに向けた準備	東京近郊／オンライン
2025年1月下旬 午後の3時間程度	<ul style="list-style-type: none">発表イベントに向けた準備	東京近郊／オンライン

※ただし、事務局の都合により、東京近郊／オンラインのハイブリッド開催の回も、オンライン開催のみとする場合があります。

4) 海外研修

海外研修として、モンゴルで研修を実施します。海外研修に参加する代表者は計16名(予定)とし、応募者から、外部専門委員会による選考を経て決定します。

モンゴル旅行のプログラムは、8月10日～8月21日(前泊～帰国報告会含む)で実施し、p.8に示すスケジュールを予定しています。前泊から帰国報告会まで、すべての日程に事務局が同行します。また、モンゴル内のプログラムには、日本の養蜂専門家も同行予定です。

7月20日(土) 17:00-18:00(時間予定；参加校決定後改めて連絡)で、オリエンテーションを行います。オリエンテーションには、海外研修に参加する代表者の他、代表者の保護者、学校関係者および海外研修に参加しない生徒も参加できます。

海外研修前にはそれぞれの学校で、モンゴルで知りたいことを検討し、代表者に質問を託すことで、生徒全体で共通の問題意識を持って海外研修に臨めるようにしてください。日本帰国後はそのまま東京近郊で1泊し、翌日、海外研修に参加しなかった生徒に向けて報告会を行います。学校側とはオンラインで接続し、他校の報告も聴けるようにすることで、学校を超えて学びを共有することとします。

モンゴルでは厳しい自然・社会環境の下、養蜂は小さな産業ながら、食料の安定供給や環境保全はもちろん、生活格差や地下資源への経済依存といった社会課題の解決に陰ながら貢献しています。地方での持続的産業として注目を集め、養蜂家が増加してハチミツ生産量が急増する一方、生産性の低さや不安定なハチミツ供給、病害虫の蔓延などに苦しんでいます。

養蜂家の課題を解決するため、モンゴル政府は養蜂産業振興政策を打ち出し、養蜂に知見を持つ獣医の育成や獣医による病害虫管理、ハチミツトレーサビリティシステムの開発、養蜂技術の開発・普及など、養蜂産業を支える制度の構築や人材の育成に取り組んでいるところです。

本研修事業の事務局である JAICAF は、2013 年から足掛け 8 年間に亘り、モンゴルで養蜂振興事業を行っています。日本人専門家による養蜂技術の指導、養蜂の教科書作り、獣医向け養蜂カリキュラム開発などを通じて、モンゴルの養蜂関係者と協力関係を築いています。



主な研修内容

	内容	日時・場所
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ● モンゴルの社会経済と養蜂を取り巻く環境 ● モンゴル養蜂の概要 ● 旅行に当たっての留意点（気候・生活等） 	7月20日（土）17:00-18:00 東京近郊／オンライン
出発前泊	<ul style="list-style-type: none"> ● 成田近辺ホテルに集合 	8月10日宿泊
モンゴル旅行	<ul style="list-style-type: none"> ● モンゴル養蜂家との交流：蜂場見学、飼育技術、養蜂経営の課題、蜜源、研究機関との協力等 ● ハチミツ工場見学：品質管理、国際認証、はちみつ流通販売等 ● 養蜂分野の職業訓練 ● 近年の養蜂関連政策・取組み：技術開発と普及、トレーサビリティシステム等 ● モンゴル養蜂分野への国際支援 ● 研修振り返りと報告準備 	8月11日（日）～ 8月20日（火） 首都ウランバートル モンゴル北部
帰国報告	<ul style="list-style-type: none"> ● モンゴル視察研修の報告 	8月21日（水）10:00-12:00 東京近郊／オンライン

モンゴル旅行日程（予定）

*UB：ウランバートル

		内容	宿泊地
8/10	土	ホテル集合	成田近辺
8/11	日	成田→ウランバートル（モンゴル航空利用）	UB*
8/12	月	関係機関訪問 ・ モンゴル政府関係機関	UB
8/13	火	・ 国際関係機関・国際協力機構 JICA ・ ウランバートル市場調査	UB
8/14	水	ウランバートル→ダルハンオール県（列車利用） ウランバートルの振り返り・現場見学ブリーフィング	ダルハンオール市
8/15	木	蜂場訪問	ダルハンオール市
8/16	金	ハチミツメーカー 現場見学の振り返り・ワークショップ	ダルハンオール市
8/17	土	ダルハンオール県→ボルガン県（車両） モンゴル生命科学大学付属ボルガン県農科大学訪問（養蜂専科）	エルデネット市
8/18	日	ボルガン県→ウランバートル（車両）	UB
8/19	月	研修取りまとめ、ディスカッション、ツアー報告準備	UB
8/20	火	ウランバートル→成田（モンゴル航空利用）	東京近郊
8/21	水	帰国報告会（東京近郊の会場）※学校とオンラインで接続 午後 解散	

※原則として全日程相部屋です。

5) 成果発表

国内研修および海外視察に参加した生徒には、事務局が主催する発表会やその他イベントでの発表をお願いします。

具体的な発表の場や日時は現時点では未定であり、参加校のスケジュール等を調整しながら確定します。全員がすべてのイベントに参加するのではなく、各校の状況を見ながら、代表校／代表となる生徒が参加する形式を予定しています。

可能な限り、参加校の行事を考慮しながら日程等を調整しますので、積極的な参加をお願いします。

また、各校独自のイベントなどでの積極的な研修報告や成果発表を期待します。

成果発表プログラム（案）

予定時期	内容	場所
3月中旬の半日	<ul style="list-style-type: none"> 事業全体の紹介 研修成果と今後の学習 その他 	東京近郊／オンライン